



発行所 国鉄労働組合
盛岡地方本部
発行者 齋藤庄司
編集者 中堤聡司
TEL 019-622-5021
メールアドレス
numori@poem.ocn.ne.jp

2011.5.10
第1433号

拡大キャッチコピー

「新しい仲間づくりを
皆の力で」
「一緒に解消しませんか、
あなたの疑問。
加入ってます」

当面の主な日程

- ▽5月11日(東京)
各地方本部書記長・業務部長会議
- ▽5月13日(盛岡)
地本執行・闘争委員会
- ▽5月14日(盛岡)
- ▽5月22日(東京)
JR東日本経営協議会
- ▽6月4日(盛岡)
東北協議会役員会
- ▽6月11日(盛岡)
組織・教宣部長合同会議

数か所の穴が開いていた。仏壇、布団はうまでもなく泥をかぶっていた。大工の友人に先に何とか泥を出せと言われたが、出そうにも物置が流され道具がない、手では無理なので隣の被害を受けたかったホームセンターに行つたが、すでに物不足で思うような道具が購入できなかった。ライフレインは復旧する見込みがないし、ストーブを焚くにもストーブがない、寒いけれどやるしかないと思ひ、避難所の食事で自宅のかたづけをしていた。

避難所の板より畳で寝ることに感激していました。毎朝陽が昇る頃に起き、陽が暮れたら寝るような生活でした。10日目くらいに地区で水道が少しづつ回復され、2週間目頃から電気も通りはじめましたが、わが家では水道が外で一部破損、電気は1階全滅で2階の灯りとコンセントが使用可能で2階生活を始めました。避難所は電気が最初に開通し、食事にカップラーメンが出た時は拍手でした、2週間目の出来事です。インスタントカレーが出たのは3週間目で、その時からおにぎりから紙カップにご飯を盛って食べられるようになりました。今でも支援物資で頂いたカップラーメンは、もったいなくて最後まで残そうと思っています。自衛隊のお風呂は2週間当たりから入れましたが、あまりに人が多いので、待っている間に体が冷えるので3回程度しか入れませんでした。

3月11日発生した未曾有の東日本大震災から、もうすぐ1カ月を迎えようとする4月7日23時32分頃、宮城沖を震源とするマグニチュード7.4の余震が発生、JR盛岡支社内の新幹線・在来線が再び全線で運転を見合わせる被害を受けた。JR関係者はもとよりご利用のお客様にとって、運転再開を目前にしての強い余震で、大きく落胆する結果となった。損傷箇所も3月の本震に続き、電化柱や架線・高架橋柱など221カ所が新たに被災し、2回の地震による支社内の被害は1850カ所に及び、復旧に要する時間も当初の予定から大幅に変更せざるを得なかった。4月29日東京・新青森間が約50日ぶりに新幹線の運転が再開され、流失や埋没した一部線区を除いては復旧する事が出来た。県内の被災地でも復興に向けて一歩ずつ進み始め、被災した人達の顔にも元気が戻りつつある。また一方では、福島第1原発事故の放射能汚染が広がりを見せ、住民の避難や農漁業への汚染などあらゆる産業で被害が拡大している。また2次被害として、観光地の温泉旅館やホテルが3月の地震以来ほとんどがキャンセルになり、倒産するところも出ている。誰もが経験した事のない災害をどう終息させるか政治家はもとより、マスコミを含め批判でなく結束した対応を求めたい。われわれ鉄道マンは過去に鉄道の復旧が地域に対して、大きな勇気と希望を与えて来た事を知っている。津波で失われた命や住み慣れた町・美しい砂浜を取り戻す事は出来ないうが、未来に命を繋ぐ鉄道復旧に向け英知を結集させる事を、強く訴えたい。(庄)

ていこう

多くの尊い人命、生活基盤を瞬時に奪い去った3月11日の東北地方太平洋沖を震源とする巨大地震・津波の当日、盛岡車両センターに勤務し、明番で宮古市津軽石の自宅に戻り、仮眠中に津波に遭い避難所に逃げ難を逃れたものの、自宅1階を流され、厳しく辛い生活を強いられている遠藤浩文さんから地震・津波当日から約1ヶ月を振り返った思いと状況の寄稿を頂いた。なお、遠藤さん家族は、4月17日から自宅の修繕が済むまでの間、宮古のJRAアパートに入居している。



台所まで海水が上がった。

海岸から約2キロの自宅へ津波 宮古市津軽石で被災、避難所へ

遠藤浩文(盛岡運転分会)

3・11、その日は夜勤明けで、お昼頃に自宅に戻って昼食をとり、1階で寝ていた時、横揺れが長く続いて、その後の縦揺れで起きた。すぐさまサイレントと「津波です」という放送が鳴り、その放送は1回のみで終わった。2階の窓から海の方を見たが、1週間前くらいと変わらないのかなと思っていたら、地響きのような音と、何百羽の雀が向いの屋根の上に乗ってしまった。まもなく、娘が「汽車が止

津軽石小に300人避難

家族も避難所で食事

避難所である津軽石小学校体育館に着いた時、校庭にまで津波がやってきたので、山にむかって登り坂を100メートル程走って高台へ、そこから津波を見ていた。言葉にならないほど無残な光景でした。1時間ほどその場にいて、避難所である小学校体育館に戻ったが、狭い体育館には逃げてきた300人程の人がいた。

その後、被害に遭わなかった人達が食料と毛布を持ってきた。水は出ない、電気もつかなくなったが、小学校のパンガスが使えるのでとりあえずおにぎりを作ることになったが、水が出ないので、100メートル山に登ったところ

自宅1階に数か所の穴

床は田園のような状態

自宅に入れたのは約24時間後である1日経っていました。鍵の開いている玄関は、1人では開けられず、2人で開けると同時に泥水が流れてきました。一階はほぼ全壊です。床は、2〜3センチの泥で田園の中を歩くようなものでした。リビングのテーブル、イス、家電は泥をかぶって散乱し中で暴れたのか、壁に大きな穴が数ヶ所あった。

台所は、冷蔵庫が3メートル程動いて横転していたしトイレは真つ黒状態、風呂場の浴槽排水ポンプが折れたのか飛び出していた。和室の6畳では畳も暴れたのか、立っているものもあり、ひっくり返っているものもあり、壁にも

2週目に避難所に電気

カップラーメンに拍手

避難所には、4日目くらいから1人におにぎり、みそ汁ひと品と家族に500CCペットボトル1本が来るようになった。夜は、自宅の2階に残った布団や毛布を叔母の家を持ち込み寝ていた。私は、寝袋二つ着、1ヶ月過ぎた今でもそうして寝ています。1週間過ぎた頃、自衛隊が来て服、日用品、雑貨などの物資が届いたが食料はほんの少しでした。私はすでに一週間同じ下着、服で過ごしていました。水・電気が来ないので、水汲みは朝夕と食事前の仕事となっていました。余震でゆっくり眠れないが、

尚、同封しました交通共済関係の書類ですが認定になるかどうかわかりませんが、よろしく願います。早いもので1ヶ月が経過しました。着の身着のまま津波から逃げた悲惨な状況のなかで国労の仲間の皆様からのご支援はとて力強く感じましたし、本当にありがたかったです。是非、私共被災者の感謝の気持ちを地方本部からも仲間の皆様へ発信していただければ幸甚でございます。

国労の仲間の支援は力強く 被災者の精野さんから御礼の手紙

前略

先般の震災の折には、ひとかならぬ多大なる御配慮とご支援ありがとうございました。身近な仲間の皆様から届いた

組合員からの支援物資 家族の住める家を早く

最後に、支援物資が来てもその時に居ないと貰えない現状があります。私は、皆さんに直接届けて頂いたので、近所の皆さんと分け合うことが出来ましたが、こんな災害に遭いました。こんな災害に遭いながらも決まっています。せめて目途が少しでも立つまで、会社を休ませて貰えたらと思っていました。津波は水でのみ込んだのではなく破壊していき

今家族の住める家を1日でも早く復興したいし、そのために防波堤を治してほしい。これからも笑顔で頑張ります。ご支援本当にありがとうございます。4月16日

被災した人達の顔にも元気が戻りつつある。また一方では、福島第1原発事故の放射能汚染が広がりを見せ、住民の避難や農漁業への汚染などあらゆる産業で被害が拡大している。また2次被害として、観光地の温泉旅館やホテルが3月の地震以来ほとんどがキャンセルになり、倒産するところも出ている。誰もが経験した事のない災害をどう終息させるか政治家はもとより、マスコミを含め批判でなく結束した対応を求めたい。われわれ鉄道マンは過去に鉄道の復旧が地域に対して、大きな勇気と希望を与えて来た事を知っている。津波で失われた命や住み慣れた町・美しい砂浜を取り戻す事は出来ないうが、未来に命を繋ぐ鉄道復旧に向け英知を結集させる事を、強く訴えたい。(庄)

震災からの早期復興の訴え

＝5.1/第82回メーデー＝



あいにくの雨となった岩手県中央メーデー (岩手公園・約2,000人が参加)



岩手県中央メーデーには、達地知事も来賓として参加し震災からの早期復興への協力を求めた



一関地区メーデーには約500人が参加した (磐井川緑地公園)



青森地区は国労独自のメーデーに、約110人が参加 (沖館市民センター)



当選を喜ぶ山崎さんと幸子夫人

統一地方選挙

山崎(組織内)、大島(推薦)氏が当選

奈良岡氏(組織内)2度目の議席確保ならず

統一地方選挙前半戦の4月1日告示、同日投票開票で実施された青森県議会議員選挙(定数10名)に組織内候補として立候補、2度目の議席の確保を目指した奈良岡克也候補(社民党公認・60歳)は、6442票を獲得したが12位となり議席確保は残念ながらならなかった。同選挙には、

13人が立候補し激しい選挙戦が展開された。奈良岡氏も、「みなさんからたくさんのお支えをいただきましたが、その期待に応えきれずに本当に申し訳ございません。青森には多くの課題があります。核燃施設や原発、雇用、地場産業の振興など、今後はこれらの課題解

決に向けて闘います。本当にありがとうございます」と(奈良岡かつや)後援会ニュース号外(4月より)と謝辞と決意をのべている。後半戦の17日告示、同24日投票の八戸市議会議員(定数36名)には全水道労組出身で推薦候補の大島一男候補(無所属・社民党推薦、64歳)が立候補、2312票を獲得し15位で4度目の当選を果たした。

19日告示、同24日投票の定数18名の矢巾町議会議員選挙に組織内候補として立候補した山崎道夫候補(無所属・社民党推薦、63歳)は、645票を獲得し10位で2度目の議席確保となった。同選挙には、19人が立候補、少数の勝利となった。地震の影響で延期されている地内の推薦する立候補を予定している岩手県議会

3月11日に発生した東日本大震災は甚大な被害をもたらした。組合員の死亡11件、家族の行方不明1件、家屋の全壊・流失・半壊等22件、一部損壊は多数にのぼる。被災された組合員や家族に対して、全国の仲間から多くの支援物資や義援金、励ましの色紙等を戴いた。そして被害の大きかった組合員には、生活支援としての見舞金を届け、共に頑張ることを誓い合

った。みんなの共済をモットーとする交運共済(JR職域生協)も、被災された組合員に対して一日も早く共済金や見舞金を支払うために休日等を返上しての手続を行なっている。4月23日、陸前高田駅に勤務し、避難中に津波で亡くなった気仙沼市の故熊谷秀三さん宅に、交運共済角田理事長と同東北支所佐藤副部長

が訪れた。気仙沼地域分会で共済担当していた故人に焼香した後、妻の美智子さんに共済金と見舞金を手渡しして戴いた。「突然の出来事に気持ちの整理がつかない」という遺族と同じように、かけがいのない組合員を失った国労や交運共済も想いは同じである。だからこそ故人のご冥福を祈り、遺族の支えになるために、共済本部から足を運んで戴いた

ことに感謝したい。その後、同行した国労東北本部松井書記長と地本佐々木書記長の4人は、降りしきる雨のなか、陸前高田駅に向かった。陸前高田市内は瓦礫で埋もれ、市街地には破壊された鉄骨ビルが数棟残っているものの街並みは跡形も無い。陸前高田駅と確認できたのは、瓦礫を取り払った「ロータリー」と「黄川田駅前薬局」の看板を見てのことだった。地獄と化したさすまじい光景のなかで、故熊谷さんの功績を偲び、全うされた鉄道マンとしての思いを引き継ぐことを誓った。

東日本大震災の被害はあまりにも甚大だ。復興には多くの労力と長い時間を費やすことになる。しかも災害は何時起るかわからない。いざという時にお互いが助け合い、支え合いながら生活再建に向け、前に進まなければならない。労働組合と共済の発展が組合員の福祉向上に繋がるのだ。

4月23日

故・熊谷秀三さん宅訪ね焼香

角田修作交運共済理事長ら関係者

光正氏(62歳)が社民党公認で4度目の当選に向け立候補を予定する盛岡市議選挙は、4月22日付の岩手日報紙によると市選挙管理委員会が8月の市長選挙とのダブル選挙で調整、8月21日告示、同月28日投票開票が濃厚との報道がなされている。定数は現行の42名から38名に変更され、県都盛岡市での厳しい戦いが予想される。細川氏の当選に向けた取り組みを盛岡地区中心に進めていこう。

支社交渉委員の変更を通知
地方本部は、4月7日盛岡支社に対し「労使間の取り扱いは協約第2章(労使間協議)」に基づく組合側委員の変更を次の通り国労盛地申第10号で通知した。

- (地方本部執行委員) 委員 伊藤 大 (北上駅)
- 委員 西野 利行 (盛岡運輸区)
- 委員 浮中 明 (盛岡信号メセ)
- 委員 佐藤 英雄 (一ノ関運輸区)
- 委員 浅井 敏治 (八戸新幹線保線技術セ)

訂正のお知らせ
国労盛岡1432号の陸中山田駅の写真解説に誤記がありました。釜石線の・・陸中山田駅とありますが、山田線・・陸中山田駅になります。謹んで訂正・お詫びいたします。

「がん」の生涯保障《アフラックのがん保険(フォルテ)》

保険期間：終身・契約年齢：0歳～80歳
バリュープランS 2倍

初めて診断確定されたとき	がんの場合	一時金40万円
診断給付金	上皮内新生物の場合	一時金4万円
がんと診断確定されたあと生存しているとき	がん診断後、2年目から5年目まで	年金20万円×4年間 *生存している場合
入院したとき	入院給付金	1,000円
手術したとき	手術給付金	20万円
5日以上の継続入院後通院したとき	通院給付金	1,000円
特定のがん治療で通院したとき	特定治療通院給付金(上皮内新生物は対象外)	1,000円
先進医療を受けたとき	がん先進医療給付金	技術料1回につき(1年間に5回まで、通算支払限度額700万円まで) 下記回(氷以外の先進医療 実費/上限50万円) 特定先進医療 (日)固形がんに対する重粒子線治療 実費/上限320万円 (月)悪性腫瘍に対する粒子線治療(*1) 実費/上限290万円 (火)HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植(*3) 実費/上限130万円
先進医療を受けたとき	がん先進医療一時金	15万円(1年間に1回まで)
がんが死亡したとき	死亡保険金	10万円

(*)1)固形がんに係るものに限る。(*)2)原発性脊髄腫瘍または転移性脊髄腫瘍に係るものに限る。(*)3)HLA適合ドナーがないために造血幹細胞移植が受けられない小児のがんに係るものに限る。先進医療の給付金一時金のご契約には、限度があります。その他、アフラックの基準により限度額を定めています。

プレミアムサポート※ 訪問面談サポートと専門医紹介(このサービスは、株式会社 法研が提供するサービスです)

※一タームケアプランS、バリュープランS2倍以上のプランにご契約の場合にご利用いただけます。

AF104-2008-0106 4月18日

◆月払保険料(団体取扱)保険料払込期間：終身がん保険フォルテ：バリュープランS 2倍 入院日額1万円

35歳	45歳	55歳	65歳
3,038円	4,222円	5,810円	7,952円

(2008年4月1日現在)

*ご健康状態などによっては、お申し込みをお引受けできない場合があります。◎詳しくは、パンフレット(契約概要)をご覧ください。

■事務上の問い合わせ先
盛岡国労会館 ☎019-652-4841 FAX019-651-7720
JR☎033-2276 JR(FAX)033-2277
〒020-0033 盛岡市盛岡駅前北通4-4

■募集代理店
アベニール株式会社 ☎03-3437-6810 FAX03-3437-6822
〒105-0004 港区新橋5-15-5 交通ビル3F

■引受保険会社
Affac 系列法人第五支社
〒163-0456 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル
当社保険に関するお問い合わせ・各種お手続き
コールセンター 0120-5555-95